

2022年9月15日

## SUBARU 新型「CROSSTREK」を世界初公開

～新世代アイサイトに、日本仕様では初となる広角単眼カメラを加え、高い安全性能を実現～

SUBARU は、本日 2022 年 9 月 15 日に新型「CROSSTREK(クロストレック)\*1」を世界初公開しました。



新型「CROSSTREK」(日本仕様プロトタイプ)

「CROSSTREK」は、コンパクトなボディ、SUBARU 独自のシンメトリカル AWD をベースとした本格的な SUV 性能、ラギッドかつスポーティなデザインを組み合わせることにより、都会からアウトドアシーンまで幅広く活用出来る多用途性を実現したクロスオーバーSUVです。

第3世代\*2となる新型では、これまで市場によって使い分けていた、「CROSSTREK」、「SUBARU XV」の車名を、グローバルで「CROSSTREK」に統一。従来型の個性的なデザインをさらに際立たせ、動的質感にもより磨きをかけました。また、新世代アイサイトに加え、広角単眼カメラも日本仕様として初めて採用することで、高い安全性能を実現しました。

日常はもちろん、休日のアウトドアやアクティビティにチャレンジしてみたい。いつでも、どこにでも行けて、自由に、そしてこれまで以上に満ち足りた時間を過ごしたい。そんな気持ちを後押しする「とことん使えて、頼りになる相棒」と呼べるクルマに仕上げました。

新型「CROSSTREK」は、日本市場への導入(2023年以降を予定)を皮切りに、順次世界各国市場にて導入予定です。

### 【新型「CROSSTREK」日本仕様プロトタイプの主な仕様】\*3

#### <エクステリアデザイン>

##### ・フロントビュー

厚みを感じさせる高いフード位置により、逞しさを表現。さらにシャープさを感じさせるフロントグリルバーやLEDヘッドランプにより、軽快かつ精悍なイメージのフロントマスクに仕立てました。

##### ・サイドビュー

クラディングエリアを拡大し、高い走破性を予感させるとともに、ダイナミックなラインや造形を盛り込んだボディにより、頼もしさと躍動感を両立しました。上級グレードには、18インチアルミホイールを採用しました。

##### ・リヤビュー

キャビンを絞り込むことでフェンダーの張り出しを強調し、安定感を表現しました。

#### ・ボディカラー展開

新色のオフショアブルー・メタリックとオアシスブルーを含む、全 9 色のエクステリアカラーを設定しました。

### <インテリアデザイン>



新型「CROSSTREK」(日本仕様プロトタイプ)

#### ・インストルメントパネル

マルチマテリアルの多層構造とすることで、各素材の風合いを活かした、シンプルでありながら表情豊かなインパネデザインとしました。

#### ・センターコンソール

センターコンソール上面の位置を高くして包まれ感と上質感を表現するとともに、操作性も向上させました。さらに工夫を凝らした収納も充実させて使い勝手の良さを感じさせるインテリアに仕立てました。

#### ・ドアトリム

人体工学に基づいて設計したインナープルハンドルにより、自然な姿勢で開閉できるようにしました。

#### ・インテリアバリエーション

上級グレードには、ファブリック(シルバーステッチ)。標準グレードには、トリコット(シルバーステッチ)を採用。メーカー装着オプションとして本革シートも設定しました。

### <パッケージング&ユーティリティ>

#### ・室内空間

従来型同等のゆとりある室内空間を実現しました。広い室内空間はあらゆる体格のドライバーが最適なドライビングポジションを取れるだけでなく、長距離ドライブでも乗る人全てが疲れにくく、ゆとりある移動時間を提供します。

#### ・荷室スペース

従来型同等の大きな荷室開口部と必要十分な荷室容量を確保。6:4 分割可倒式リヤシートによって荷室を自在に拡張することで、大きな荷物や長尺物の搭載も可能です。

#### ・ユーティリティ

リヤゲート下部のトリムやサイドシルプレートに、山をモチーフとしたテクスチャーを採用。優れたデザイン性だけでなく、滑り止めやキズの防止という実用性も兼ね備えています。見るたびに「CROSSTREK と過ごすアクティブな時間」への期待が高まります。また、サイドシルプレートは形状を最適化し、ルーフに荷物を載せたり、屋根を拭き上げるために足をかける際の安定性を高めました。

#### ・マルチメディアシステム

レヴォーグや WRX S4 などの他車種で採用している 11.6 インチセンターインフォメーションディスプレイの大画面がもたらす使い勝手の良さや、先進的ですがっきりとしたデザインはそのままに、スマートフォンとの連携機能を大幅に強化。普段使っているスマートフォンと同じ感覚でシームレスに扱えるインフォテインメントシステムに進化しました。

### <動的質感>

#### ・骨盤を支えるシート構造

大学医学部との共同研究による医学的知見を取り入れた仙骨を押さえて骨盤を支えるシート構造を採用。仙骨を押さえることで、車体の揺れが頭部へ伝わることを防ぎます。これにより、ステアリング操作に伴うロール

や、路面のうねりで身体が大きく揺さぶられたときでも、快適な乗り心地を実現しています。

#### ・シートの固定構造の変更

シートと車体の固定構造を、従来型のブラケットを介した方法から、シートレールを直接車体に固定する構造に変更しました。これにより、取り付け部の剛性と振動収束性が向上。シートそのものの揺れを抑え、快適な乗り心地を実現しました。

#### ・高減衰マスチックによるルーフの共振抑制/音の収束性向上

ルーフパネルとブレースの間に、振動の吸収性が高く、制振性に優れた高減衰マスチック(弾性接着剤)を採用しました。これにより、ルーフの振動によって発生する騒音の音圧を低減するとともに車内音の収束性が向上し、快適な乗り心地を実現しました。

#### ・スバルグローバルプラットフォームの進化

従来型の優れた操縦安定性・乗り心地を支えた「スバルグローバルプラットフォーム」をさらに進化させました。レヴォーグや WRX S4 などの他車種で採用しているフルインナーフレーム構造の採用や、構造用接着剤の適用拡大、サスペンション取り付け部の剛性向上など、最新の知見や技術を盛り込みました。これにより、高く評価されてきた従来型をさらに上回る、高いレベルの動的質感を実現しました。

#### ・フルインナーフレーム構造

従来型はアッパーボディとアンダーボディを別々に組み立てた後、接合していたのに対し、新型ではボディ全体の骨格部材を強固に組み立ててから、外板パネルを溶接する「フルインナーフレーム構造」を採用。ボディのさらなる高剛性化と軽量化を実現しました。微小な変形やたわみを抑えた高剛性ボディにより、サスペンションやエンジンマウントが本来の機能をあますことなく発揮できるようになりました。これによって、操縦安定性を向上させるだけでなく路面からの振動の収束性を高め、質感が高くフラットで快適な乗り心地も実現しました。

#### ・2ピニオン電動パワーステアリング

応答遅れが少ないスポーティで上質なステアリングフィールを実現する、2ピニオン電動パワーステアリングを採用。ドライバーのステアリング操作軸をモーターアシスト軸から分離した構造とし、操舵初期のフリクションを低減。リニアでなめらかなトルク伝達を可能としています。また、操舵角に応じてステアリングのギア比が変化する「VGR(Variable Gear Ratio)」を継続採用。低速時の取り回しの良さと高速走行時の直進安定性を両立しています。

#### ・電動ブレーキブースター

優れた昇圧性能を持つ電動ブレーキブースターを採用。プリクラッシュブレーキで、自転車の急な飛び出しなどへの応答性が向上しました。また、全車速追従機能付クルーズコントロール使用時の、急な先行車の割り込みなどに対する素早い減速も実現しています。

#### ・パワートレイン

モーターアシストの軽快な走りが愉しめる 2.0L e-BOXER を採用。加えて、エンジンやリニアトロニックにも振動や騒音を低減する改良を施しています。

### <安全性能>

#### ・デジタルマルチビューモニター

4つのカメラ映像を合成して車両周囲 360° を映し出す 3D ビュー/トップビューを採用し、車両周囲の視認性を高めました。また、画面表示には新採用のセンターインフォメーションディスプレイを使用して、従来型のマルチファンクションディスプレイより大きく高精細な画面により、見やすさと使いやすさを向上させています。

#### ・フル LED ハイ&ロービームランプ+LED コーナリングランプ(SUBARU 初)

ハイ&ロービームランプ、ポジションランプに加えターンランプも LED 化。さらに交差点での右左折時などに進行方向を照らす、LED コーナリングランプを SUBARU 車として初採用。夜間の視認性を向上させました。

#### ・新型ステレオカメラユニット

画角を従来型の約 2 倍と大幅に拡大。画像認識ソフトや制御ソフトを改良し、より広く遠い範囲まで認識できるようにしました。また、フロントガラス取り付け式に変更するとともに、レンズフードを採用し、レンズに誤って触れることがないようにしました。

#### ・広角単眼カメラ(SUBARU 日本市場初)

低速での走行時に、新型ステレオカメラよりも広角で、二輪車/歩行者を認識できる単眼カメラを新採用。プリクラッシュブレーキで対応できるシチュエーションを拡大し、歴代アイサイトとして最高の性能を実現しました。

### <衝突安全>

従来型でも評価の高かったスバルグローバルプラットフォームの衝突安全性のポテンシャルをさらに引き上げま

した。万が一の衝突に備え、乗員保護はもちろん、歩行者保護も含む衝突安全性能を磨き上げています。対前面衝突では、バンパービームを車両外側まで拡大するとともに、衝突サブフレームを追加。対車両の衝突事故において自車の衝突安全性だけでなく、相手側の乗員を守る性能(コンパティビリティ)も高めました。また、レガシィアウトバックと同様、実際の正面衝突事故を想定して、コンパティビリティを評価する新たな前面衝突試験「MPDB(Mobile Progressive Deformable Barrier)」を導入しています。

#### <つながる安全>

コネクティッドサービス「SUBARU STARLINK」がさらに進化。従来の「つながる安全」機能に加え、利便性や快適性を高める新サービスを展開して、コネクティッドサービスの領域拡大を図ります。

詳細については、SUBARU オフィシャル Web サイト内の特設ページをご覧ください。

<SUBARU オフィシャル Web サイト 新型「CROSSTREK」特設ページ>

<https://www.subaru.jp/crosstrek/crosstrek/>

\*1: CROSSOVER と TREKKING の造語。

\*2: 初代モデルは、2012 年発表。2 代目モデルは、2017 年発表。

\*3: グレードによって仕様は異なります。

#### 【新型「CROSSTREK」の主な諸元(日本仕様プロトタイプ、社内測定値)】\*4

全長×全幅×全高(mm)	4,480×1,800×1,580*5
室内長×室内幅×室内高(mm)	1,930×1,505×1,200
乗員人数(名)	5
ホイールベース(mm)	2,670
最小回転半径(m)	5.4
最低地上高(mm)	200
車両重量(kg)	1,540~1,620
エンジン	2.0L DOHC 直噴+モーター(e-BOXER)
トランスミッション	リニアトロニック
ステアリング	ラック&ピニオン式
サスペンション形式[前/後]	ストラット式独立懸架 / ダブルウィッシュボーン式独立懸架
ブレーキ [前/後]	ベンチレーテッドディスク / ベンチレーテッドディスク
タイヤサイズ・ホイール	225/60R17 / 225/55R18

\*4: グレードによって仕様は異なります。

\*5: ルーフレール・シャークフィンアンテナ無しの場合は、全高+30mm。